

「これまでの100年、これからの100年」

郡上おどり保存会100周年

に向けて



「盆踊りを禁ず」。盆踊りは明治期、風紀を乱す風習として禁じられていました。大正期にやと郷土の歴史の見直しと伝統文化再興の運動が起こり、盆踊りや伝統芸能復活の機運が盛り上がってきました。大正7年に、盆踊りを公然と復活しようとする「踊り保存会」設立の動きが起こってきましたが、当時、富山の米騒動などがあり、団体を設立することに対する治安上の理由や風紀上の問題から反対があり、そこに大正8年の北町大火によって、設立の動きが止まってしまいました。

しかし、このような逆境の中でも、郷土芸術を永遠に保存したいという強い志を持った先人たちが、芸術性を高めるために多種多様となった踊りの整理や風紀改善のための委員の配置など、あらゆる努力をされて、難産の末、大正11年（1922）、郡上おどり保存会（以下「保存会」という。）が設立されました。今では想像もつかない逆境の中で生まれ、戦禍も乗り越えてきた、保存会が来年、設立100

0周年を迎えようとしています。かつては全国で当たり前に行われていた「盆踊り」の中でも、衰退することなく、400年以上にわたり継承されている郡上おどりにとって、保存会設立100周年は、特別な節目です。

今年2月に、郡上おどり運営委員会と保存会の会員により構成された郡上おどり100周年記念事業実行委員会が立ち上がりました。保存会設立100周年となる令和4年（2022）を一つの契機として、先人たちの偉業を称えるとともに、将来にわたって郡上おどりが愛され継承されていくために、私たちは今、何ができるか、何をすべきかを、各種事業の展開の中で、みなさんと一緒に考えてまいりたいと思います。

各種記念事業を展開

- ① 記念誌部会
② 踊り本「郡上おどり」の改訂・発行

郡上おどりの由来や踊り種目のいわれ、特色、保存会のあゆみ、踊り方説明などを掲載した通称「踊り本」は、昭和54年に本格的に内容を整え、発行されました。その後、郡上おどり400年祭を契機として、平成30年7月に改訂発行されました。最新は、郡上市合併直後の平成17年4月に改訂・発行されています。15年の歳月が過ぎ、内容が陳腐化してきたため、見直しを進めながら、新版を発行します。



▶ 郡上市重要文化財「郡上踊り保存会記録」より「大正十一年以降 郡上踊り保存会 会議録」（郡上市歴史資料館蔵）



▲ 昭和54年以前に発行された踊り本（昭和18年3月23日発行）



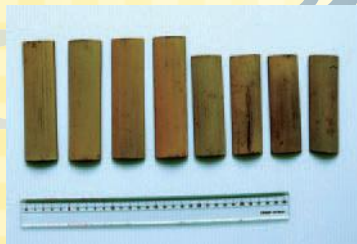
▲ 平成17年4月1日に改訂・発行された踊り本「郡上おどり」

②記念誌の発行

これまでの100年間の出来事を写真を中心に紹介します。古い写真や踊りに関するパンフレット、チラシ、物品などの資料を募集しています。すでに、長年、郡上おどりを支えられた故人の親族の方から資料を提供いただいています。みなさんのお宅に資料がありましたら、ぜひご提供ください。現物の返却をご希望の場合、提供いただきました資料を写真撮影した後お返しします。



▶昭和32年に伊勢市で開催された、伊勢神宮奉納第1回全日本民謡おどり大会(全日本観光連盟主催)のパンフレット



▲「ヤッチク」の名前の由来となった「八つの竹片」

③郡上おどり歌詞募集

平成3年、郡上おどり400年祭では、「かわさき」と「春駒」を対象に、歌詞募集を行い、全国から795首の歌詞が寄せられ、27首が入賞しました。

今回は、歌詞曲目は、「古調かわさき」を除く、9曲を対象とし、「げんげんばらばら」や「ヤッチク」などの長編物も募集します。締め切りは12月31日(当日消印有効です)。詳細は、先月号の広報に折り込んだ募集チラシ、または市ホームページをご覧ください。長く唄い継いでゆく歌詞を募集します。

④三味線譜作成

郡上おどりの鳴り物に三味線は欠かせません。これまでも三味線譜(文化譜)を販売してき



▲昭和47年8月15日、愛宕公園での徹夜おどり(郡上おどり写真コンテスト入賞作品)

ましたが、今回新たに「小十郎譜」(縦書き譜面)を追加します。

(2) イベント部会、式典部会

郡上おどり保存会設立100周年記念式典を、令和4年の踊り発祥祭の日となる7月9日(土)に開催予定です。踊りにかかる功労者表彰など、現在、式典内容を検討しています。また記念イベントとして、記念講演会や「ガヤガヤ会議」の開催などを模索しています。「これからの100年」につなげていくという方針で各イベントを実施していく予定です。

(3) 計画策定部会

保存会の後継者育成や踊りを支えていただいている方々の高齢化、設備の老朽化など様々な課題をかかえています。

現在の踊り屋形は昭和48年に製作された総樗造りの重厚なものですが、約50年の歳月が経過し、損傷箇所も発生しています。また、郡上おどりの様々な資料が一堂に閲覧でき、踊り体験もできる拠点整備の構想もかつてありましたが、公共施設の見直しが進む中、実現には至っていません。

平成元年に郡上おどり保存会ジュニアクラブが発足し、その後400年祭を契機として、八幡地域に複数のおはやしクラ

ブが出来てきました。また、小中学生によるおどり発表会の開催など、明るい兆しはあるものの、保存会の後継者育成問題は、解消されていません。

郡上おどりにかかる、こうしたソフト、ハード両面の課題について、100周年を契機に計画を策定し、課題解決の実現に向けて取り組んでいきます。

昨年、今年と郡上おどりの開催は見合わせとなつていますが、今年開催されたオンラインピック閉会式では全世界に発信され、注目を集めました。コロナ禍の困難を乗り越え、2年ぶり

に開催される郡上おどりとともに、郡上おどり保存会100周年記念事業も注目してください。

【問い合わせ先】

郡上おどり保存会100周年記念事業実行委員会事務局(商工観光部観光課内)
67・1808
67・1820

※「郡上踊」と「郡上おどり」の違い

国指定重要無形民俗文化財として表記する場合は、「郡上踊」を使用しています。広く一般的に紹介する場合は、ひらがなで「郡上おどり」と表記しています。



▲昭和48年に総樗造りで製作された踊り屋形